

今回のThe★看護では、昨年度から開設している脳卒中相談窓口と認知症相談窓口の案内をさせていただきます。そして、2024年10月から当院で認知症の治療薬であるレカネマブという注射薬が採用されることになり、どのようなお薬が紹介したいと思います。

脳卒中相談窓口のご案内

当院では患者さん・ご家族が脳卒中に関する退院後の生活や不安、悩みについて相談できるよう脳卒中相談窓口を開設しました。さまざまな支援を行っていますので、お気軽にご相談下さい。

相談日	月曜日～金曜日（土日祝日を除く）
時間	8：30～16：00 
相談窓口	医療相談室（脳卒中相談窓口）
相談内容	後遺症、リハビリ、血圧、内服、食事、水分、禁煙、飲酒、再発時の対応、脳卒中連携バス、療養先、介護保険、身体障害者手帳、仕事、患者会、経済面などについて、心配なことがありましたらご相談下さい。
相談対応者	医療ソーシャルワーカー、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士 ※相談内容によっては返答にお時間をいただく場合があります
申し込み方法	来院時または電話（0880-66-2222）でも受け付けます。

脳卒中はどんな病気？

脳の血管が急に詰まったり、破れたりして起こる病気の総称で、血管が詰まって起こるのが「脳梗塞」、血管が破れて起こるのが「脳出血」、脳動脈瘤が破裂して起こるのが「くも膜下出血」です。1番多いのは、脳梗塞です。

脳卒中は急性期の治療が終わった後もリハビリや療養のため転院や、自宅退院された場合でも後遺症などがある場合は、生活の工夫を行ったり、脳卒中が再発しないような生活習慣を身につけるなど新しい生活スタイルへ変化させる必要があります。また、脳卒中の症状は患者さんによって異なり、生活環境も違うため、患者さんやご家族が抱えている困りごとは多岐にわたります。当院でも脳卒中相談窓口を開設し、医療ソーシャルワーカー（MSW）やリハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士とチームを組んで、さまざまな困りごとに対応できるように取り組んでいきたいと思っています。予約での相談はもちろんですが、診察の待ち時間やお時間のある時に、相談窓口にお越しいただければ対応できるようにしていきたいと思っています。病院スタッフの方も質問などありましたら気軽に相談下さい。

認知症（もの忘れ）相談窓口のご案内

脳神経外科では「物忘れ」に関する診察と相談窓口対応も行っています。患者様とご家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、認定看護師、MSWが相談対応させていただいています。ご本人が受診に応じてくださらないなど、ご家族のみの相談にも対応しています。

物忘れが気になる、検査や治療について知りたい、介護認定についてなど何でもかまいません。必要に応じて地域包括支援センターとの共有や、介護保険申請・区分変更の提案をしています。

「認知症」の名前に抵抗を感じる方もおられますが、当院のかかりつけの診療科に応じて、高血圧や内服相談、脳卒中の検診と表現する工夫もしています。

連絡先；0880-66-2222（病院代表）

物忘れ・高齢者の相談とお伝えください。

令和5年度 相談件数延べ221件

内容	<ul style="list-style-type: none"> ・本人・家族のもの忘れ ・介護の相談 ・治療薬について ・入院時や外来受診時の様子が気になる（院内スタッフからの相談）
対応	<ul style="list-style-type: none"> ・受診までの道筋をたてる ・受診時のかわり ・生活状況の聞き取り ・地域包括支援センターとの共有 ・介護申請の提案

レカネマブ（レケンビ）ってどんな薬？

『アルツハイマー病による軽度認知障害（MCI）』と『アルツハイマー病による軽度の認知症』に対する注射薬です。脳のアミロイドβを減らすことによりアルツハイマー病の進行を遅らせる効果が期待されています。外来で数回に分けて検査を行い適応基準を満たし、同意が得られれば初回は2泊3日の入院で注射し、以後は2週間毎に外来で注射する流れになります。問題なく経過すれば1年半で終了となります。医師、看護師、MSW、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、管理栄養士、公認心理士でチームをつくりサポートしています。